

## 令和7年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

旧制鳳中学校時代からの綱領「誠実・剛健・進取」のもと、普通科単位制高校ならではの恵まれた学習環境を活かし、生徒が広い視野を持ち、他者と協働しながら、「自分ごと」として様々な課題に取り組めるよう支援することで、将来の地域社会の中核を担う者として、その発展に貢献できる人材を育成します。(めざす生徒像)

- 1 将来に向かって高い志を抱き、信念を持って果敢に挑戦する生徒
- 2 自らの夢や目標に向けて、本校入学後も向学心を持って勉学に取り組む生徒
- 3 本校の普通科単位制のシステムを活用し、進路実現に向けた幅広い知識と情報の吸収を意欲的に行う生徒
- 4 学業のみならず、部活動や学校行事等を通して、自己の成長のために努力を惜しまない生徒

### 2 中期的目標

- 1 夢や目標に向けて、主体的に進路実現に取り組む生徒の育成  
「自分ごと」として物事を捉え、様々な課題に向き合い、将来の自分を見据えて粘り強く取り組んでいく姿勢を育成する。  
(1) 生徒が主体的に取り組む進路学習・キャリア教育を充実させる。  
(2) これからの社会で求められる力を育成するための校内体制・教育活動を充実させる。  
(3) 単位制普通科の優位性を活かしたガイダンス体制の一層の充実を図り、年間を通じた指導を行う。  
(4) R6 に支援を受けた学校経営推進費や DX ハイスクールの資金を活用し、コミュニケーション能力の育成を中心とした多様な活動ができるように施設設備およびカリキュラム全般について整備する。

#### 2 「ひろく」「たかく」を実現する確かな学力の育成

- 視野を大きく持って、様々な課題に意欲的に取り組む意識を育成する。
- (1) 単位制の長所を生かし、多様な希望に高い次元で答えられる学びを提供し、確かな学力の定着を行う。
  - (2) 外部との連携を含めたカリキュラム・マネジメントを行い、教育活動全般で生徒の自主性・創造性を引き出す取組みを進める。
  - (3) 知識・技能に偏らず、課題解決に向けて意欲的に創意工夫する意識を持続する心を育てる。

#### 3 安全安心な学校づくり

- 個性を活かしつつ、他者を思いやることにより好ましい人間関係を構築できる力を育成する。
- (1) 自他を尊重し、多様な価値観を認められるよう人権教育・道徳教育に計画的に取り組む。
  - (2) 地域や外部機関等を活用して、安全安心な学校づくりを行う。
  - (3) 基本的な生活習慣の確立、マナーの向上、学習活動と学校行事・部活動との両立をめざす。

#### 4 教員の資質向上と学校運営の改善

- 教員個々の資質を向上させるとともに、学校運営を考えた業務を行うことにより組織力の向上を行う。
- (1) 教職員間の情報共有を進め、個々の教員が要望ではなく提案をすることで、教職員の学校運営への参加を促進する。
  - (2) 他校視察、教員研修、授業見学などの機会を設け、教育に関する情報収集を積極的に行う。
  - (3) ノークラブデーや学校休業日を確実に実施するとともに、時間外労働が月 80 時間以上の教員を減少させていく。

- ※ R9 までに海外オンライン交流 2 回/年以上。英検 2 級受験者 2 年生 55%以上、1 年生 30%以上にする。
- ※ R9 までに国公立大学進学者 70 名以上(R4 65 名、R5 56 名、R6 44 名)にする。また、難関私立大学合格者 200 名以上(R4 230 名、R5 178 名、R6 130 名)を維持する。
- ※ R9 までガイダンスに係る生徒の満足度 90%以上を維持する。(ガイダンス R4 94%、R5 95%、R6 94%)
- ※ R9 まで進路指導に係る生徒の満足度 90%以上を維持する。(進路指導 R4 85%、R5 90%、R6 94%)
- ※ R9 まで授業理解の肯定的評価 80%以上を維持する。(R4 81%、R5 83%、R6 87%)
- ※ R9 は生徒の自己管理能力の肯定的評価 80%(R4 78%、R5 79%、R6 81%)をめざし、生徒・教職員とのギャップを 20 ポイント未満(R4 6p、R5 9p、R6 20p)を維持する。
- ※ R9 まで生徒・保護者の学校満足度「入学して満足」85%以上を維持する。(生徒：R4 85%、R5 90%、R6 90% 保護者：R4 91%、R5 92%、R6 91%)

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○「新設の項目についての経年変化」 (※数値は%) 肯定的回答が多かった項目において変化がみられたのは「自分の良いところを学校等で活かそうとしている」(肯定的数値 71→84)であった。それ以外は横ばい。 一方、昨年肯定的回答の少なかった項目のうち、「地域や社会、世界がより良くなるためにできることを取り組んでいる」には若干の改善が見られた(72→76)。しかし、「デジタル機器を活用した授業に興味がある(74→68)」は減少、「海外と連携した交流の授業に興味がある(54→54)」は横ばいであった。DXroomの拡充と使用や海外姉妹校提携等を進めているところであり、さらなる取組の課題が見えた。</p> <p>○「特徴的な数値について」⇒今回は、差が10p以上のものに絞って分析・考察 ①生徒・「授業が分からない場合は先生に聞く」という項目が昨年比較で顕著に増加した。(56→67) 関連項目「平日授業以外での学習時間はどれくらいですか?」という項目においても増加が見られた(40.9→45.5)。これは、保護者の同項目「平日の授業以外での学習時間はどれくらいですか?」にもみられ(24.8→37.5)、生徒が学習に熱心に取り組む様子が感じ取れる。その要因として、生徒の「授業内容はよく理解できている」が減少(86.5→81.6)している点から、「個別に教員へ質問をし、自学自習を増やしている」という構図が想像される。教員の指導力の向上、個別の生徒対応、フォローアップ体制などを考えていく必要がある。ちなみに、保護者の「子どもは授業内容をよく理解できているようだ」は過去最高を示していて、生徒・保護者との乖離も見られる。</p>	<p>第1回学校運営協議会 令和7年7月8日(火) 10時から11時30分 1. 令和6年度学校経営計画に基づく取組み状況及び自己評価について 2. 令和7年度学校経営計画について 3. 令和8年度使用教科書の選定について 4. 令和10年度以降の選抜における「学校特色枠」について 5. 意見交換 ・探究におけるプレゼン能力の向上は、将来大いに役に立つ。 ・時間に対する考え方等については、環境の醸成とともに教育が必要。 ・バランス感覚のある人間育成が望まれる。外部講師による学びも大切。</p> <p>第2回学校運営協議会 令和7年11月27日(木) 13時から14時30分 1. 令和7年度学校経営計画進捗状況について 2. 令和10年度以降の選抜における「学校特色枠」について 3. 「探究」の授業見学 4. 意見交換 ・「生徒のモチベーション」…定員割れの影響により、生徒のモチベーションが低下していることが懸念される。 ・「学校の魅力づくり」…鳳でこれがしたいと思わせる独自の魅力や、卒業生(をロールモデルとした人)生設計の指導が必要と考える。 ・「探究学習・プレゼン指導の質の向上」…「調べ学習」に留まらないよう、1年生からの積み上げ(探究基礎)が重要。また、プレゼン指導において、生成AIの活用法や技術を適切に指導・フィードバックできる体制づくり。 ・「教職員組織の課題」…教員間の連携や、単位制による加配が十分に活かされているかの確認が必要。 ・進学実績に裏打ちされた教育の質の担保。教員の指導力向上が急務。</p>

<p>②保護者・情報収集について、「学校における子どもの状況（学校からの文書・成績・HP・公式SNSなど）が十分伝わっている」が増加（64.7→74.6 過去最高）した。これは「本校のホームページ・公式SNSをよく見る」の結果（66.5→72.6 過去最高）とも合致し、情報発信の効果が一定表れたと考えられる。今後も校外への情報発信を強化し、情報共有や広報活動につなげていく。</p> <p>③教職員・ICT機器の活用に関する項目（「授業において」「教材研究において」）でそれぞれ「活用したことがある」が2年連続で100%となった。校務用ICT環境が整備されたことを反映していると考えられる。それに加え、「生徒による問題行動が起こったときに組織的に対応できる体制が整っている」「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」「情報提供の手段として、学校のホームページ・SNSが活用されている」も100%となった。一方「生徒の自己管理能力は十分育っている」が伸びた（61.1→74.3 過去最高）のに対して、生徒・保護者の同項目は減少（生徒-2.77、保護者-0.6）しているという乖離が見られた。</p> <p>○次年度に向けて</p> <p>回答のオンライン化によって集計にかかる時間は短縮できたものの、回答率に課題が残った。一昨年度から始まった各分掌・委員会などにおける総括も含め、「今後の学校運営」にかかわる情報として、回収率を高め活用していく。</p>	<p>第3回学校運営協議会 令和8年2月12日（木）15時から16時30分</p> <p>1. 校長挨拶 2. 令和7年度学校経営計画に基づく取組み状況・評価</p> <p>3. 令和8年度学校経営計画(案)について</p> <p>【探究部設立】「高校生として何ができるか」まで考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の「楽しい」と「主体性」を重視</li> <li>1年：探究の基礎（情報収集・批判的思考）</li> <li>2年：挑戦型探究（コンテスト・学校PR等）</li> <li>3年：成果を進路へ接続（入試活用・進路の再定義）</li> <li>・外部連携強化（校外、企業、中学校等）</li> </ul> <p>4.協議（意見・要望）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「DX施設設備」整備は完了。今後は活用の充実が課題。</li> <li>・「海岸オンライン交流」今後はエキスパートクラスを中心とした台湾・シンガポールなどアジア圏とのオンライン交流を検討。</li> <li>・「ガイダンス」教員の専門性の向上の必要性が確認された。</li> </ul> <p>「探究」以下の指摘。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究の「出口」（大学入試等）を明確化 ・やりたいこと、楽しいだけでなく目標から逆算する指導の必要性</li> <li>・社会に出た後を意識した計画・期限管理・チーム力・リーダーシップ育成</li> <li>・探究と教科の接続の明確化</li> <li>・「遅刻」遅刻数は昨年より20%減少しているものの指導の継続が必要。</li> </ul>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（R6年度値）	自己評価（⇒検証と課題）
1 夢や希望に向けて、主体的に進路実現に取り組む生徒の育成	(1) 主体性 生徒が主体的に取り組む進路学習・キャリア教育を充実させる。	ア 総合的な探究の時間、LHR等を改善充実させ、計画的に実施する。 (ア)進路学習・キャリア教育の内容、実施時期・提供方法の工夫及び大学、教育産業等の活用  (イ)長期休暇中等の講習を継続・充実  (ウ)家庭学習・自主的な学習の充実	(ア)「生徒が進路資料・情報を自分で集める努力をしている」を70%以上（79%）で維持する。 (イ)「生徒の講習への参加状況」を3年40%以上（57%）、全学年35%以上（35%）を維持する。 (ウ)家庭学習・自主的な学習への取組みを促す仕組みを考え実施する。	(ア) 78%【○】 (イ) 3年 52%【○】 全体 33%【○】 (ウ) 組織的に実施できず【△】 ⇒計画性ある講習の実施 ⇒生徒・保護者への進路情報のサポート体制の確立
	(2) これからの社会で求められる力を育成するための校内体制・教育活動を充実させる。	ア 新たな学習指導要領に基づき、求められる学力を分析し、授業での実践とともに観点別学習状況評価を活用し、主体性を適切に評価することで生徒の学びに向かう力を伸ばす。 イ 生徒の学習状況、進路等のデータ分析や情報を学校全体で共有し、蓄積することで3年間を見通した継続的な進路指導ができるようにする。そのため、外部テストや学習支援ツール等を学校全体で共通とし効率・効果高めるとともに朝の学習時間の有効活用と振り返りの時間を実施する。	ア「生徒の授業理解」を80%以上（87%）で維持する。（新規）  イ・大学入学共通テスト受験者の国語、数学、英語の平均点が全国平均を上回る。（国語+7.2：数学+5.6：英語+2.5） ・平日の「自学自習時間」2時間以上の生徒について、1、2年生は20%（12%）、3年生は80%（85%）にする。	ア 81%【○】 ⇒更なる授業の質の向上  イ ・大学入試共通テスト ⇒終了後集計→掲載
	(3) 単位制普通科の優位性を活かしたガイダンス体制の一層の充実を図り、年間を通じた指導を行う。	ア 生徒の進路意識を高め、最適な科目選択を行えるよう、生徒自ら進路の資料・情報を収集し咀嚼する機会を計画的に提供する。 (ア)ガイダンスを年間を通じて実施し、生徒の進路選択を支援する。  (イ)学習や進路意識の診断結果等を活用した懇談・ガイダンスを充実させる。 (ウ)専門家による説明会、講演会等を活用して将来のイメージを具体化させる。  (エ)科目選択モデル案の改善	(ア)「生徒が進路資料・情報を自分で集める努力をしている」を70%以上（79%）で維持する。 (イ)「ガイダンスへの肯定的評価」を90%以上（94%）で維持する。 (ウ)「将来の生き方や進路について考える機会の提供」を80%以上（94%）で維持する。 (エ)「コース選択や進路情報の提供」を80%以上（89%）で維持する。	(ア) 78%【○】 ⇒個々の生徒に合わせたガイダンスの実施 (イ) 96%【○】 ⇒相談しやすい環境づくり (ウ) 91%【◎】 ⇒外部講師や卒業生による講話の継続実施 (エ) 86%【○】 ⇒モデル案の検証・改善
	(4) コミュニケーション能力の育成を中心とした多様な活動ができるように施設設備およびカリキュラム全般について整備する。	(ア) DXハイスクールで整備した施設設備を活用し、デジタル機器の活用とともにコミュニケーション能力を高めることにより多様な要望に応えられるリテラシーを高める。 (イ) グローバル人材の育成（学校経営推進費）を活用し、外部機関と連携し、海外を含めた多様なコミュニケーションを実践することで自他の理解を深める。	(ア) デジタル機器の活用とともに、外部講師や他校との交流の機会を持つことにより、多方面への意欲的な活動を導き出す。（新規） (イ) 80期生での英語エキスパートクラスの新設とともに多様な活動を設定し、生徒の積極的な交流への意欲を高める（新規）	(ア) デジタル機器【○】 ⇒他校交流による相互学習 (イ) 生徒の交流【○】 ⇒留学生の受入れ、国際交流への参加（インド・オーストラリア・大阪観光局）

<p>2 「つるく」「たかく」を実現する学力の育成</p>	<p>(1) 単位制の長所を生かし、多様な希望に高い次元で答えられる学びを提供し確かな学力の定着を行う。</p> <p>(2) 外部との連携を含めたカリキュラム・マネジメントを行い、教育活動全般で生徒の自主性・創造性を引き出す取組みを進める。</p> <p>(3) 知識・技能に偏らず、課題解決に向けて創意工夫する意識を持続する心を育てる。</p>	<p>(1) 学力向上委員会中心に先進校視察、教員相互の授業見学、先進事例の紹介などを行い授業力の向上とともに生徒の学力の向上を行う。</p> <p>ア 生徒自治会・委員会の活動を活性化して生徒の自主性を高める。</p> <p>イ 地域や他校種との連携を行い生徒の創造性を養う</p> <p>ア カリキュラムマネジメント委員会より探究委員会を独立し、教育活動全般について探求する姿勢を育むための計画を行う。</p> <p>イ 授業を大切にし、自らの弱点を克服し力を伸ばす工夫をする力を育む。</p>	<p>(ア) 教員相互の校内授業見学の仕組みの確立 校内研修・情報交換会を年3回以上(5回)実施する。</p> <p>(イ) 校内研修は1回以上、好事例の共有は3回以上(職員会議で共有10回)実施する。</p> <p>ア (ア) 「自治会活動の有用感」を80%以上(88%)で維持する。 (イ) 「自分は積極的に学校行事に参加した」を90%以上(91%)で維持する。</p> <p>イ 他校種との連携授業3回以上(2回)。クラブ等での連携5回以上(5回)。</p> <p>ア (ア) 「生徒が自ら考えたり、主体的に学んだり活動したりする機会がある」を教員80%以上(100%)、生徒[取り組んでいる]85%以上(87%)で維持する。 (イ) 「教員のICT機器の活用」について、教材研究(100%)・授業での活用(100%)ともに90%以上とする。</p> <p>イ 外部テストの結果分析会を実施「授業が分からない場合は先生に聞く」を60%以上(56%)にする。</p>	<p>(ア) 校内研修・情報交換会の実施(3回)【O】</p> <p>(イ) 報告(5回)学力向上のための研修実施せず【△】</p> <p>ア (ア) 86%【O】 ⇒自治会生徒が輝ける場を創出する (イ) 91%【O】 ⇒行事の企画運営の支援 ・ 榎尾学園との連携 ・ 部活動交流多数</p> <p>ア (ア) 教員97%【◎】 生徒85%【O】 ⇒主体的な学び・活動とする (イ) どちらも100%【◎】 ⇒教員の活用スキルと授業内容の質向上 イ 68%【◎】 ⇒分析の更なる有効活用</p>
<p>3 安心安全な学校づくり</p>	<p>(1) 自他を尊重し、多様な価値観を認められるよう人権教育・道徳教育に計画的に取り組む。</p> <p>(2) 地域や外部機関等と連携する。</p> <p>(3) 基本的な生活習慣の確立、マナーの向上、学習活動と学校行事・部活動との両立、ストレスコントロール力、安心安全な学校づくりを推進する。</p>	<p>ア 人権 HR、人権映画鑑賞や教職員人権研修を柱に据えて取り組む。 (ア) 他人を思いやり、自己を大切にできる人間性を育む。</p> <p>(イ) 教育相談体制を充実し、SC・SSWとの連携を密にする。</p> <p>(ウ) 各種学校行事、史跡探訪、国際交流研修、スピーチコンテスト等を活用して、自分の意見をわかりやすく伝えるとともに、多様な価値観に触れたり、協働したりする活動を設定し、コミュニケーション力を高める。</p> <p>ア 開かれた学校づくりを実践し地域や中学生への理解を深める。保護者に対しては、Google クラブルーム等を通じて情報提供を密にし、SNSの活用を含めて学校への関心を高める。</p> <p>イ 中学生対象の「体験授業」「クラブ体験」の機会を設け、学校を理解できるようにする。</p> <p>ア 日常生活指導と強化週間とを効果的に連動させる。 (ア) 登下校時の安全指導(特に自転車指導)の継続</p> <p>(イ) SHRの活用、生活確立特別週間の活用</p> <p>(ウ) 「集中と切り替え」を指導し、学習活動と部活動・学校行事の両立を図るとともに、外部テスト等も積極的に活用して家庭学習の定着を図る。</p>	<p>(ア) 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」を80%以上(89%)で維持する。</p> <p>(イ) 「教育相談体制が整備されており、生徒は担任以外の教職員とも相談することができる」を70%以上(84%)で維持する。「悩みが相談しやすい」を50%以上(63%)で維持する。</p> <p>(ウ) 「授業などで自ら考えたり、主体的に学んだり活動したりする機会がある」を90%以上(96%)で維持する。</p> <p>ア 学校HPの利用状況の向上 ・ 保護者「学校のホームページ・SNSをよく見る」60%以上(55%)にする。 ・ 教員「情報提供の手段として、学校のホームページ・SNSが活用されている」を90%以上(84%)にする。</p> <p>イ 体験授業・クラブ体験の実施4回以上(4回)</p> <p>(ア) 「学校は基本的な生活習慣の確立に力を入れている」を85%以上(88%)で維持する。 (イ) 遅刻登校者数3,000件未満(3,750件)を維持する。</p> <p>(ウ) ・ 平日の「自学自習時間」2時間以上の生徒について、1、2年生は20%(12%)、3年生は80%(85%)にする。※再掲 ・ 部活動加入率を85%以上(89%)で維持する。 ・ 「学習と部活動の両立ができています」を70%以上(73%)で維持する。 ・ 生徒の「自己管理能力は十分にある」を75%以上(81%)で維持し、教職員(61%)とのギャップを20ポイント未満(20ポイント)とする。</p>	<p>(ア) 88%【O】 ⇒内容を精選していく。</p> <p>〈イ〉担任以外100%【◎】 相談しやすい59%【O】 ⇒生徒に寄り添う教育相談の更なる強化に努める。 (ウ) 91%【O】 ⇒生徒は、自主的に学び活動することはできている。自主的から主体的なレベルに引き上げていく。</p> <p>ア ・ 63%【O】 ⇒情報発信の工夫と継続 ・ 100%【◎】 ⇒全体で情報を発信していく体制づくり イ 4回以上実施【O】 ⇒バスケ・陸上(ナイター練習会)・バレー等複数部活で実施。継続・拡大する。</p> <p>(ア) 87%【O】 ⇒呼び名を変更し、生活確立週間の継続 (イ) 3708【△】 ⇒工夫と再検討が必要 (ウ) ・ 1、2年 19%【O】 3年 86%【O】 ⇒課題の精選、教科間連携 ・ 85%【O】 ⇒指導・内容の充実、交流 ・ 72%【O】 ⇒部活と担任の情報交換 ・ 生徒79%教員74%【O】 ⇒感覚にズレがないかを確認しながら進めていく。</p>

## 府立鳳高等学校

<p>4 教員の資質向上と学校運営の改善</p>	<p>(1) 教職員間の情報共有を進め、教職員の学校運営への参加を促進する。 (2) 他校視察、教員研修、授業見学などの機会を設け、教育に関する情報収集を積極的に行う。 (3) ノークラブデーや学校休業日を確実に実施するとともに、時間外労働が月80時間以上の教員を減少させていく。</p>	<p>(1) 情報を適切に管理するとともに必要な情報を共有し、個々の教員が要望ではなく提案をすることで、学校運営に参加する仕組みを作る。 (2) 教員相互および他校の状況を適切に把握することにより、教員個々の業務の改善、学校の課題の解決に寄与する。 (3) 部活動方針を遵守し、月毎の時間外労働の把握と必要に応じて縮減に向けた指導を継続して行う。</p>	<p>(1) 職員室の配置やICTの活用など、教員間での情報共有ができるように組織運営を行う。「教員間で適切に情報共有が行われている」80%以上(79%) (2) 管外への学校視察1回以上。近隣の先進校視察を2回実施する。得られた情報を還元し本校の教育活動の改善に寄与する。(1回) (3) ノークラブデー等の完全実施。月80時間以上の時間外労働教職員数を17名未満(16名)とする。</p>	<p>(1) 85%【O】 ⇒情報共有については、一定のルールのもと実施。 (2) 実施【O】 ⇒学校視察は、「DX」「探究」「国際交流」等、6回実施。次年度以降もテーマを決め、継続実施。 (3) 18名(Δ) ⇒学校の余白づくりに向けて、取組みの方策を具体化し施行実施していく。</p>
------------------------------	--	---	--	--